

1. 目的

理念の実現や2020ビジョンの達成、2014年度～2016年度の3ヵ年の第七次中期計画、また、将来の仕組みや事業活動の検討に向けて一般組合員の傾向を分析する。

2. 実施概要

対象：全組合員

期間：2014年11月17日（月）～2014年12月19日（金）の5週間

3. 参加組合員属性

①参加総数・男女比

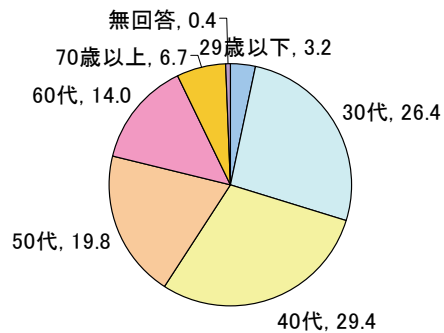
■回答数 3,655件

■男性 約7%、女性 約93%

*インターネットでの回答は約92%、紙媒体での回答は約8%となりました。

②年代について

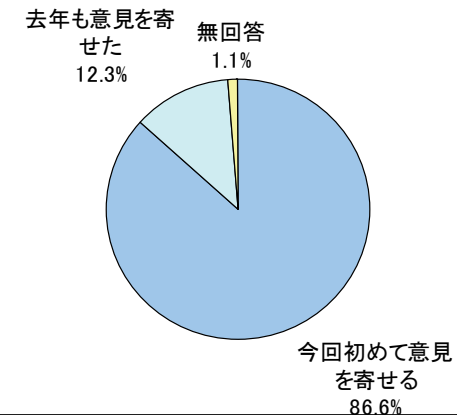
[Q3]●年齢についてお答え下さい。
(n=3655)



■30代、40代の方がそれぞれ約3割、あわせて6割近くとなりました。

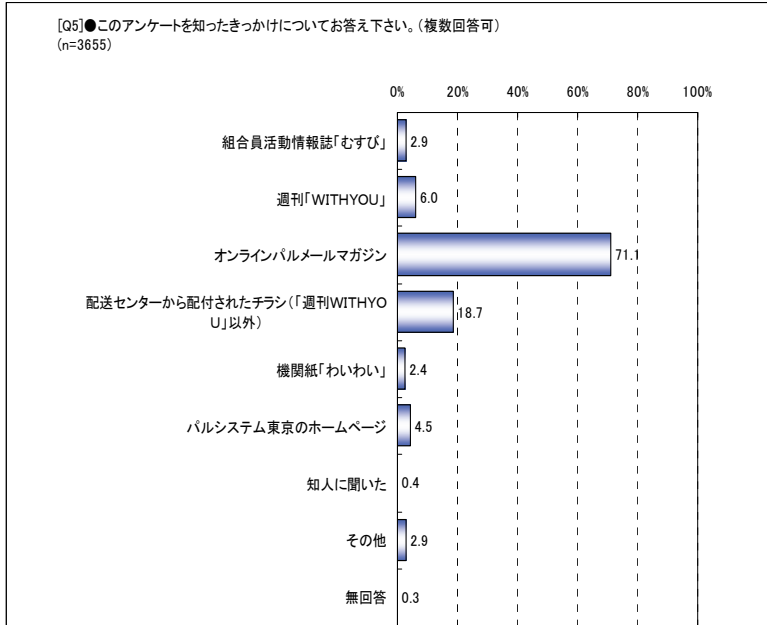
③アンケートの参加について

[Q4]●アンケートの参加についてお答え下さい。
(n=3655)



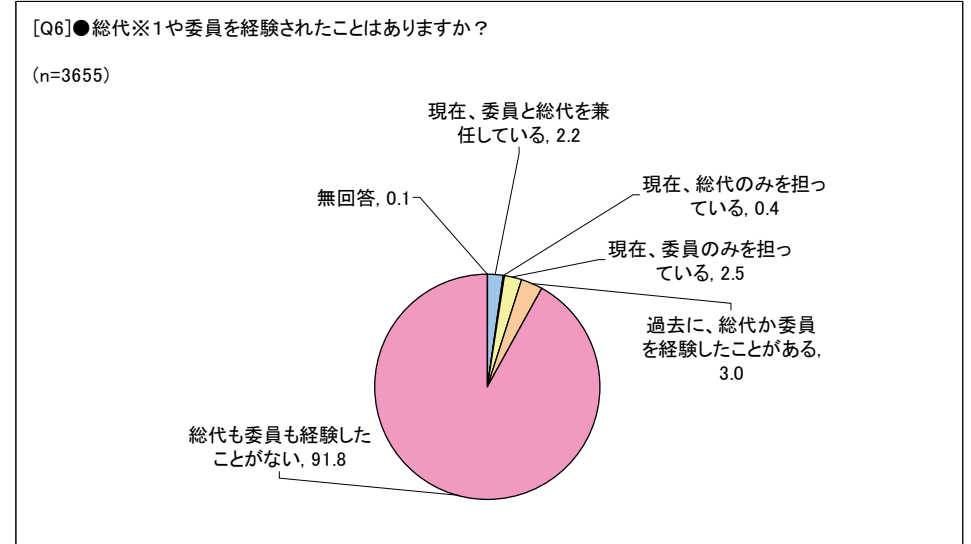
■今年初めての方が9割弱となりました。

④アンケートを知ったきっかけについて



■オンラインパルメールマガジンが約7割、続いて配送センターからのチラシが約2割となりました。

⑤総代や委員経験の有無について

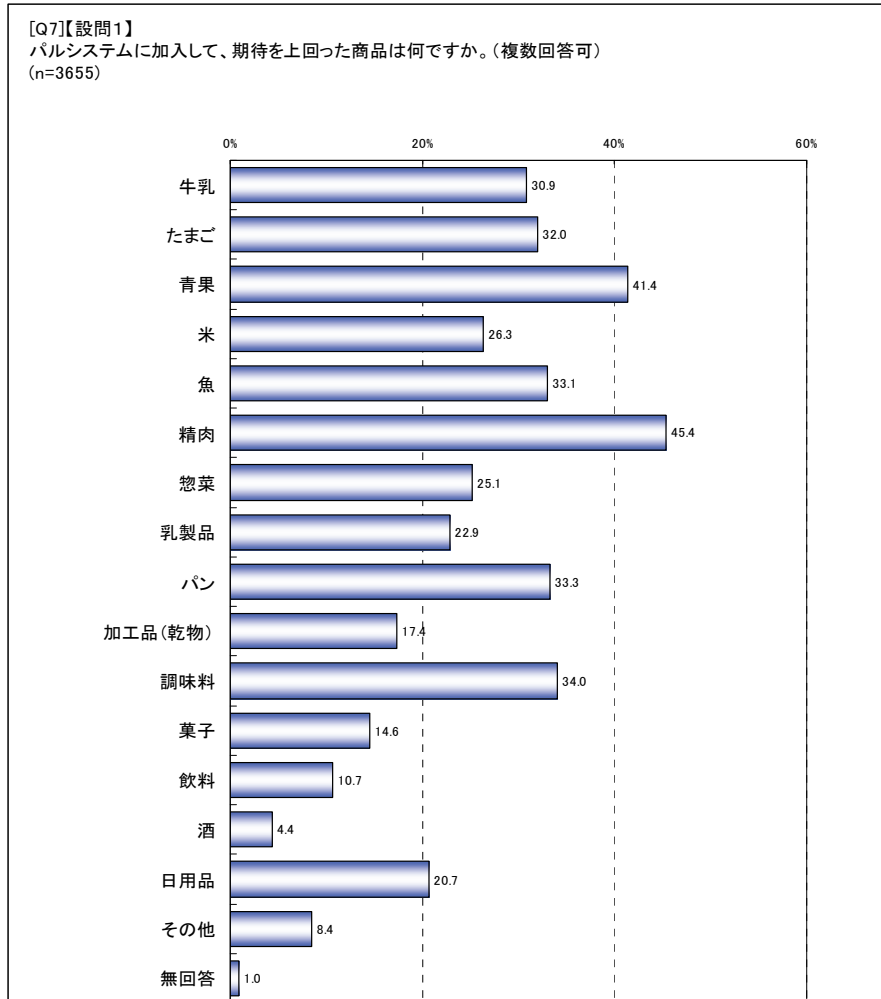


■総代も委員も経験したことがない方が約9割となりました。

4. 回答：全体グラフと年代別の特徴について

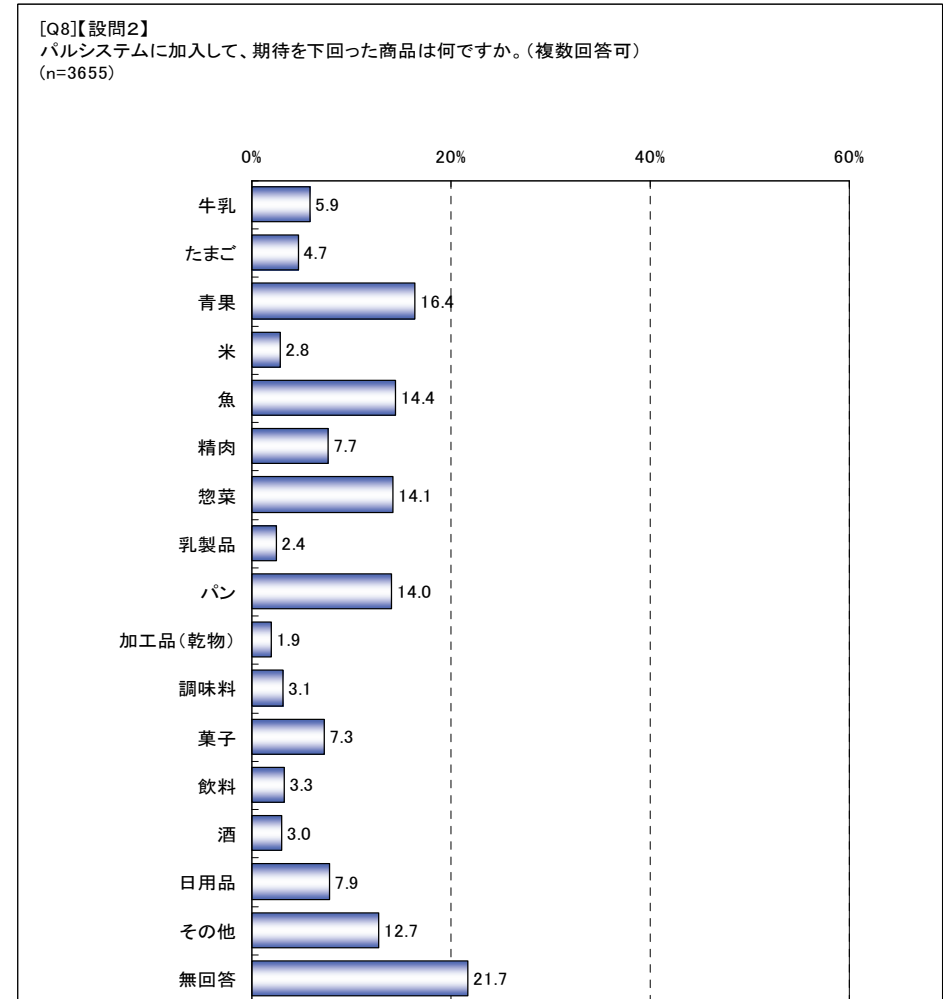
(1) パルシステム事業に関する回答

① パルシステムに加入して期待を上回った商品(複数回答可)



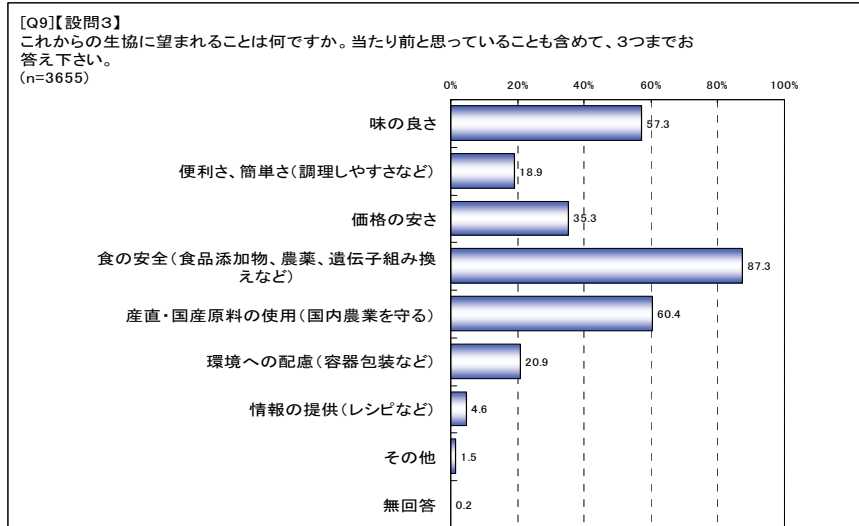
■ 2013年と同じ質問です。①精肉②青果③調味料④パン⑤魚でした。2013年は上位から①精肉②青果③牛乳④たまご⑤調味料でしたので調味料とパンが上昇しています。全体を上回っているものは、30代では「魚」、50代では「牛乳」「たまご」「米」、70代以上では「たまご」「日用品」となっています。30代で「牛乳」「たまご」「米」が全体を下回っている(期待を上回らなかった)ことも特徴的です。

② パルシステムに加入して、期待を下回った商品(複数回答可)



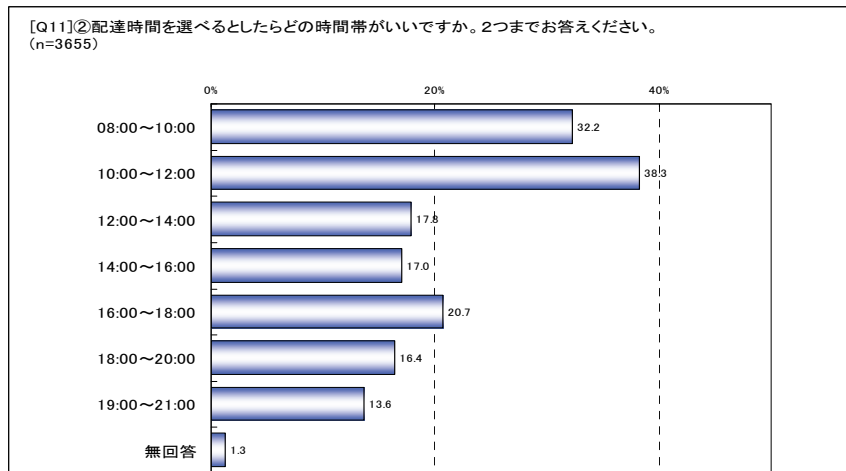
■ 2013年と同じ質問です。①青果②魚③惣菜④パン⑤日用品でした。2013年は①青果②魚③惣菜④パン⑤精肉でしたので、ほぼ同じ結果といえます。70代以上では「青果」、60代・70代以上では「惣菜」が全体を上回っています。一方で29才以下では「魚」が全体を下回って(期待を下回っていない)います。

③これからの生協に望むこと(3つまで可)



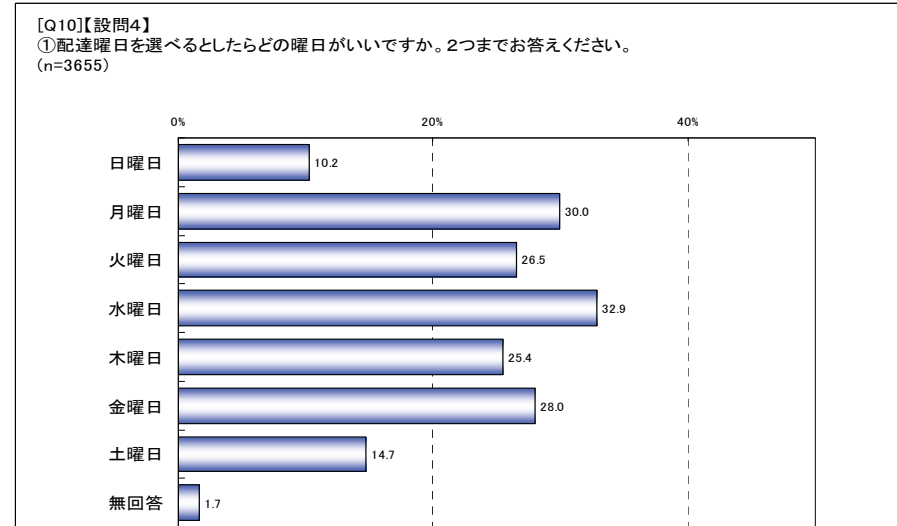
■今年初めての設問です。全体では①食の安全②産直・国産原料③味、となっています。29才以下では「簡単・便利」「価格」、30代では「簡単・便利」の回答が全体を上回り、一方で60代では「産直・国産」「環境への配慮」を求める回答が全体を上回っています。

⑤配達時間を選べるとしたらどの時間帯がいいか(2つまで可)



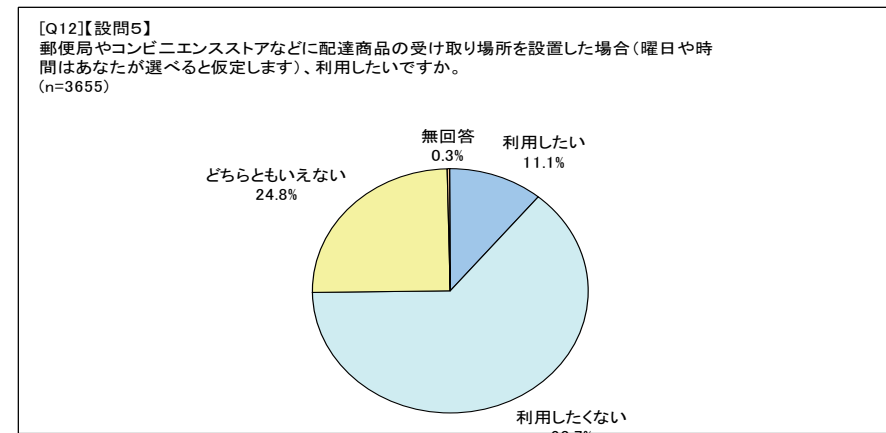
■今年初めての質問です。午前中を希望される方が上位で、次に16時以降となっています。29才以下では「18時以降」の希望が全体を上回り、60代以上では「18時以降」は全体を下回る傾向です。

④配達曜日を選べるとしたらどの曜日がいいか(2つまで可)



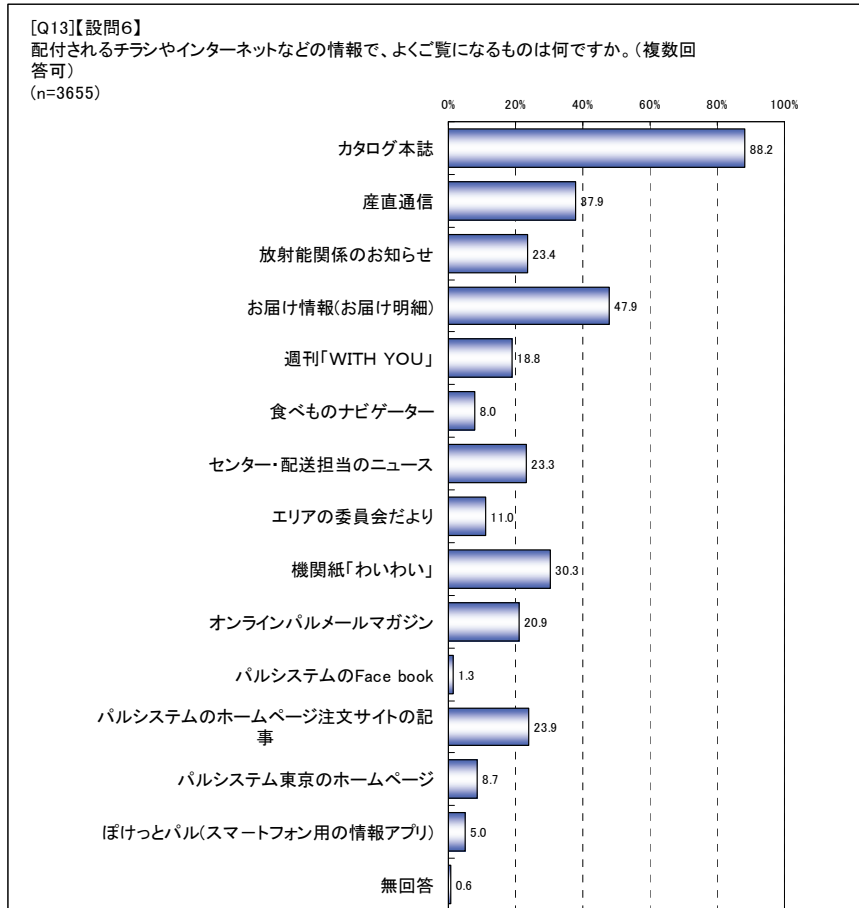
■今年初めての質問です。全体では①水曜②月曜③金曜となっています。29才以下では「土」「日」の回答が他の年代を上回っている一方で、60代では「木」「金」、70代では「火」の回答が全体を上回っています。

⑥郵便局やコンビニエンスストアなどに配達商品の受け取り場所を設置した場合、利用したいか。



■今年初めての質問です。全体では「利用したくない」が上位ですが、「どちらともいえない」の割合も高くなっています。30代以下では「利用したい」が、60代以上では「利用したくない」が全体を上回る傾向です。

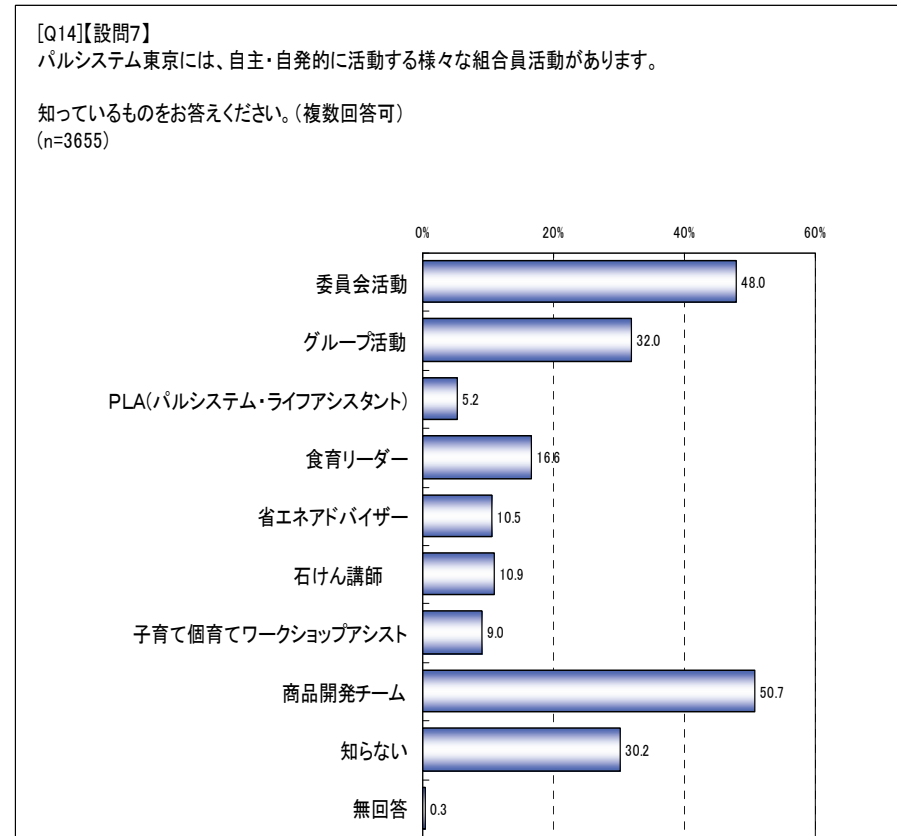
⑦配付されるチラシやインターネットなどの情報でよく見るものは何か。
(複数回答可)



■今年初めての設問です。全体的には①本誌②お届け情報③機関紙わいわいとなっています。29才以下で「ホームページの注文サイト」が、50代以上を中心に「産直通信」「機関紙わいわい」「お届け情報」などの情報誌が全体を上回っています。一方で30代以下では「お届け情報」「放射能関係のお知らせ」は全体を下回っています。

(2) 組合員活動に関する回答

①パルシステム東京の組合員活動で知っているもの(複数回答可)

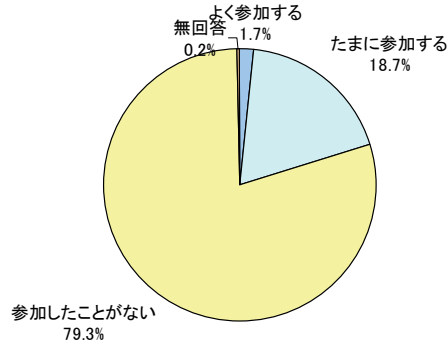


■2013年と同じ設問です。傾向は昨年とほぼ同じです。年代別では、30代以下で「知らない」と回答した割合が全体より高くなっています。50代と60代では委員会活動を認知している人は6割弱もいる一方で、30代以下では3割前後と低い傾向があります。

②学習会や講演会などの参加経験について

[Q15]【設問8】
パルシステム東京では政策に基づいた様々な企画があります。学習会や講演会などの参加経験についてお答えください。

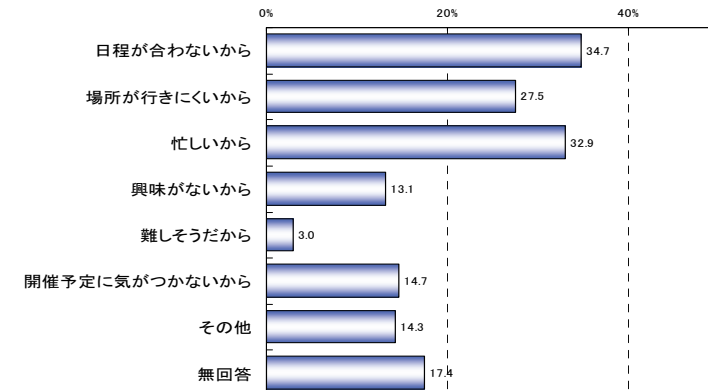
①パルシステムの学習会や講演会、講習会などに参加されますか。
(n=3655)



■今年初めての設問です。「参加したことがない」が約8割となりました。

③学習会や講演会に参加しない理由

[Q16]②学習会や講演会、講習会に参加されない方にお聞きします。その理由は何ですか。(複数回答可)
(n=3655)

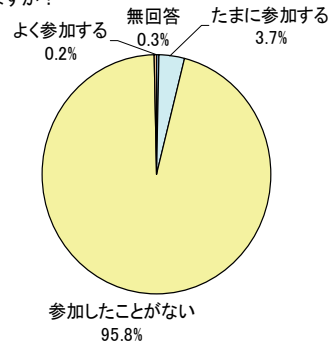


■学習会や講演会などに参加しない理由として、全体では「日程」「忙しい」の回答が多くなっています。29才以下では「開催予定に気がつかない」「忙しい」、70代以上では「場所が行きにくい」が全体よりも高い傾向です。

④産地交流ツアーに参加したことがあるか。

[Q17]【設問9】
パルシステム東京ではコア産地(新潟県上越市・青森県藤崎町・千葉県旭市)や秋田南部圏など、お米の産地を中心に産地交流ツアーを企画しています。産地交流ツアーの企画内容に関してお答えください。

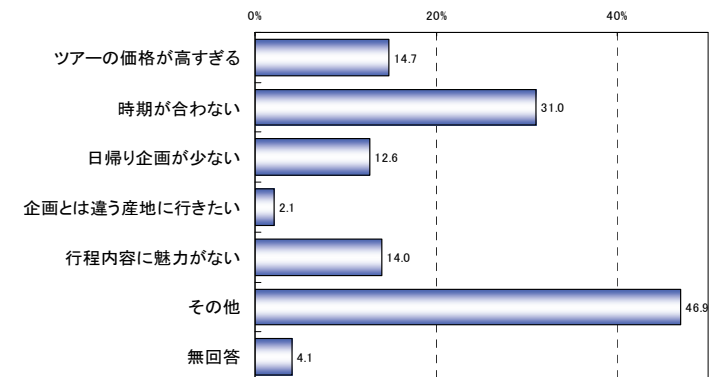
①産地交流ツアーに参加したことがありますか？
(n=3655)



■今年初めての設問です。「参加したことがない」9割以上となりました。

⑤産地交流ツアーに参加しない理由

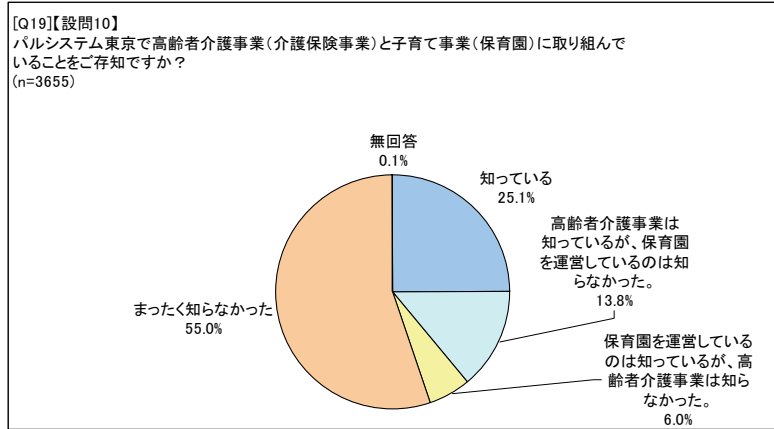
[Q18]②産地交流ツアーに参加されない方にお聞きします。応募に至らない理由は何ですか。(複数回答可)
(n=3655)



■産地交流ツアーに参加したことがない理由として、全体では「その他」の回答が特に多く、続いて「時期」「価格」となっています。40代、50代で「時期が合わない」が全体よりも高い傾向です。

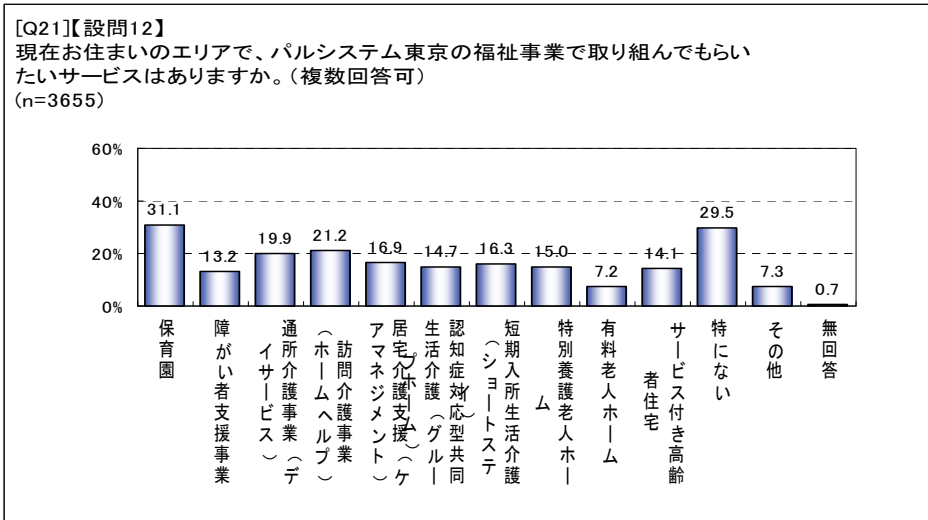
(3) 福祉事業に関する回答

① 高齢者介護事業と子育て事業の取り組みを知っているか。



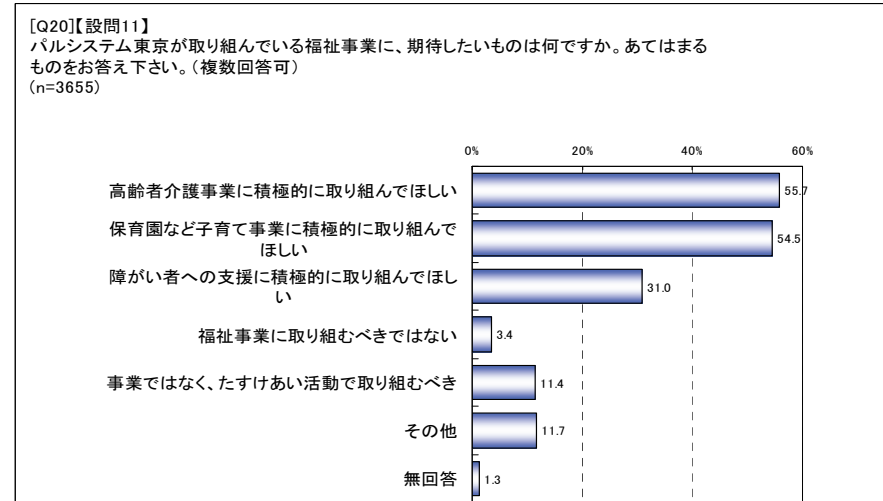
■ 2013年の設問に「子育て事業」の項目を追加しています。「全く知らない」は2013年より約7%改善していますが依然として5割強に留まっています。30代では「保育園のみ知っている」50代以上では「介護事業のみ知っている」が全体より上回っています。

③ 住んでいるエリアで福祉事業に取り組んでもらいたいサービス(複数回答可)



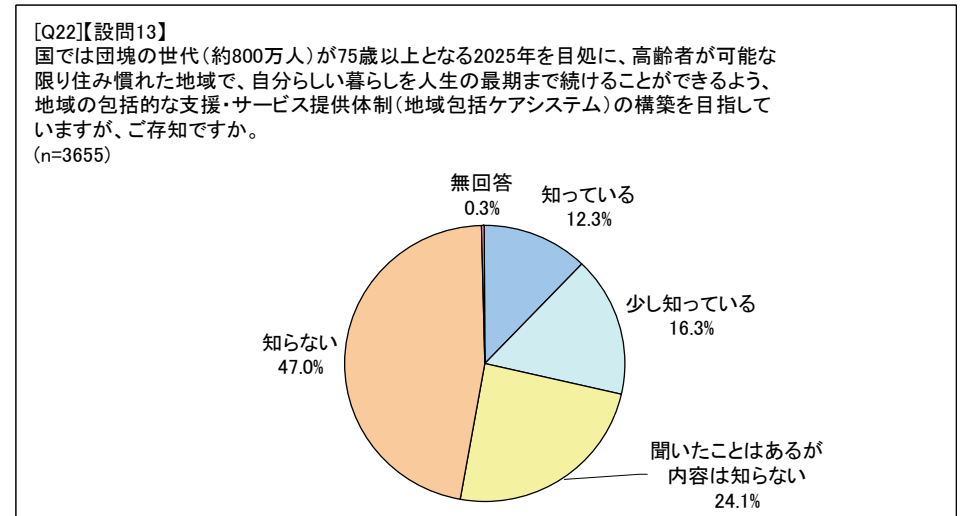
■ 2013年と同じ設問です。全体的な傾向は同じですが、30代以下を中心に新たな項目である「保育園」が1位となっています。続いて40代を中心に「特にない」、50代以上を中心に高齢者介護全般の回答が多い傾向です。

② 福祉事業に期待すること(複数回答可)



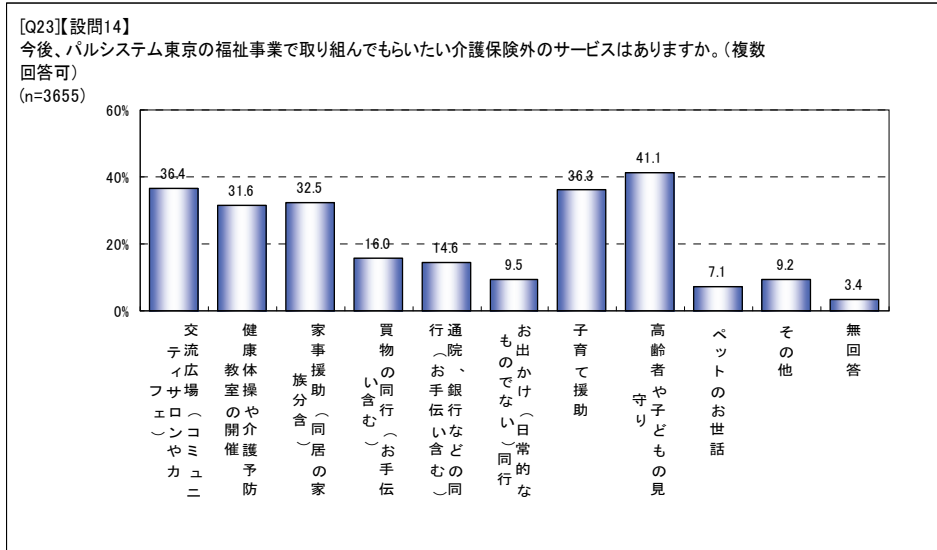
■ 今年初めての設問です。全体では「高齢者介護」の回答が多くなっています。29才以下、30代では「保育園」が、50代以上では「介護事業」が全体を上回っています。

④ 地域包括ケアシステムについて



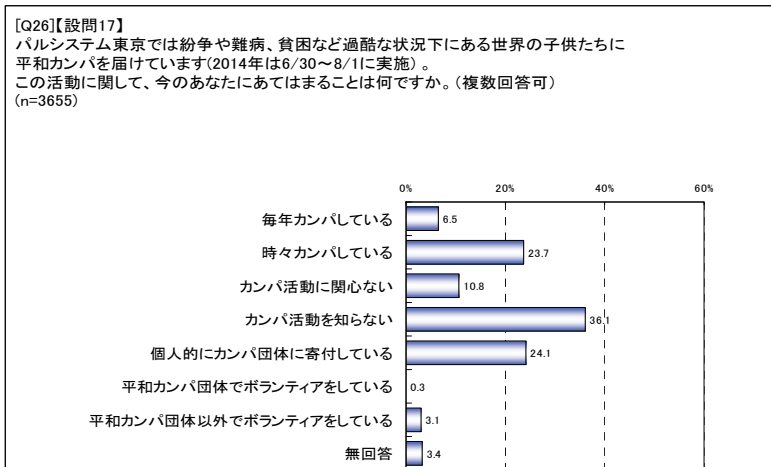
■ 今年初めての設問です。「知らない」「内容は知らない」を合わせると全体の7割を超えています。30代以下の認知度が低く、50代以上で高くなる傾向です。年代により認知の差が大きくなっています。

⑤ 今後福祉事業で取り組んでもらいたい介護保険外のサービス(複数回答可)



■ 2013年と同じ設問です。全体的な傾向は同じですが、「見守り」や「子育て援助」に続いて「交流広場」「家事援助」となっています。30代以下では「子育て事業」、60代以上では「健康体操」が全体を上回っています。

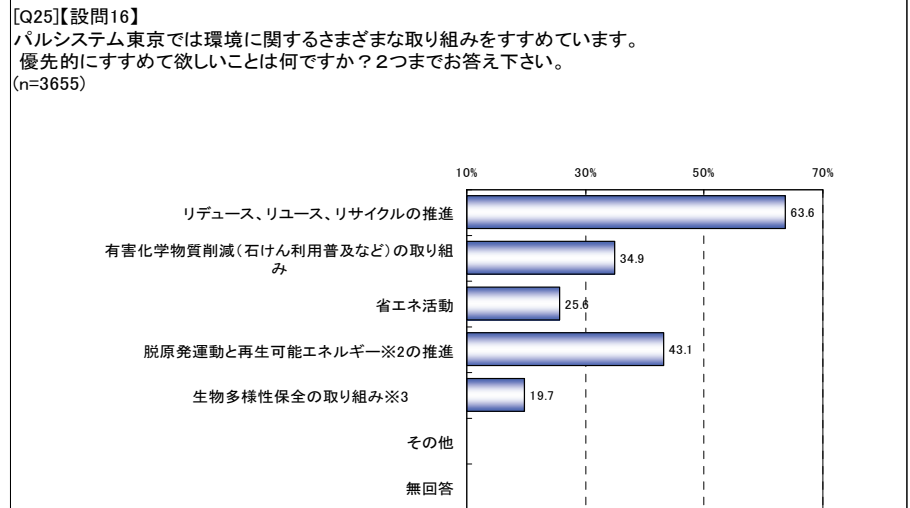
② 平和カンパについてあてはまること(複数回答可)



■ 今年初めての設問です。30代以下では「知らない」、50代以上で「個人的にカンパ」の割合が多くなっています。

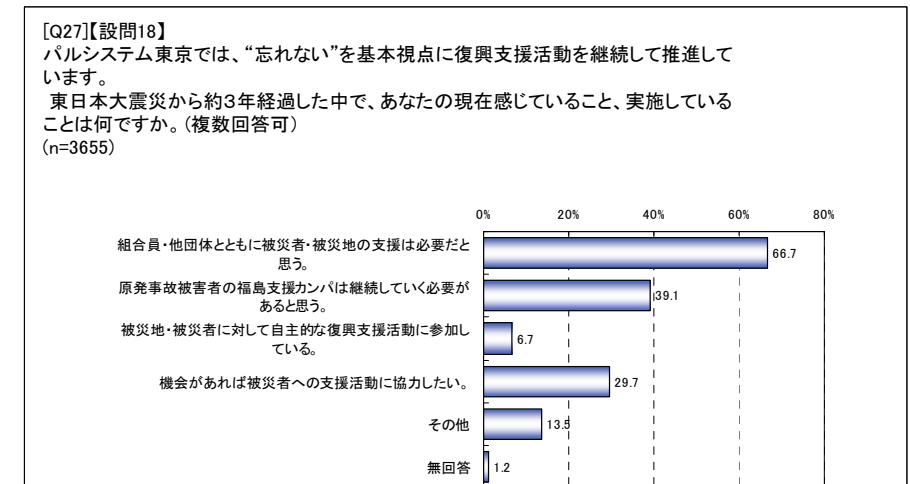
(4) 環境・平和・復興支援に関する回答

① 優先的にすすめて欲しい環境の取り組み



■ 2013年と同じ設問です。全体的な傾向は同じですが全体を上回る項目として30代以下では「有害化学物質削減」、60代では「脱原発と再生可能エネルギーの推進」となっています。

③ 被災地支援について感じていること、実施していること(複数回答可)



■ 今年初めての設問です。全体では「被災者(地)支援」「原発被害者への支援カンパ」の回答が多く、年齢と比例して高まる傾向です。一方で、若年層(特に29才以下)では「機会があれば活動に協力」が多くなっています。

5. アンケートのまとめ

今年のアンケートの特徴と回答から読み取れる傾向や受け止めの方向性について項目ごとにまとめました。

■回答者の属性について

- ・2014年は2013年と比較して約290%と回答人数が大幅に増加しました。特にオンラインパルのメールマガジンでの告知を強化したことから、これをきっかけとした回答者が大幅に増えています。
- ・今年初めての回答者が9割近くを占めていること、また、組合員活動経験のない回答者が9割を超えていることから、一般組合員の意識がより反映された内容であると考えられます。

■回答からみえること

(1) パルシステム事業に関する回答から

- ・商品への期待については、パルシステム東京の中心世代である40代以上から運動商品への根強い支持を得ていることが読み取れます。
- ・一方で、「期待を上回った商品」の設問で、特に30代以下で「牛乳」「たまご」「米」の回答割合が低かったことは、パルシステムの主力商品の価値を伝える努力がさらに必要であることが読み取れます。
- ・また、60代以上で惣菜が、70代以上で青果が支持されていないことから、量目を含めた世代別のニーズや好みの研究が必要と思われます。
- ・商品を含めた生協への希望や配達の仕組みについての回答からは、これまで表面化していないニーズの存在や、世代、または生活の多様化による時間、曜日、場所など、細分化した対応が求められることが読み取れます。

(2) 組合員活動に関する回答から

- ・組合員活動、企画などの認知度や参加経験からは、多様化する組合員に対応する選択肢だけではなく広報の工夫の必要性も読み取れます。
- ・また、「その他」や「無回答」の割合が多いことから、参加できない組合員へもっと掘り下げた調査の必要性があるといえそうです。

(3) 福祉事業に関する回答から

- ・世代別の回答傾向からは対象世代への一定の広報は進みつつあるとも読み取れますが、全体的には依然として認知度が低い状況です。
- ・地域包括ケアシステムについては、生協が期待される役割も大きいため、知る機会の提供から福祉事業全体の理解への検討の必要性があるといえそうです。

(4) 環境・平和・復興支援に関する回答から

- ・環境の取り組みについては、世代により取り組み内容の違いはありますが、安定的な関心度合いが読み取れます。
- ・平和カンパや被災地支援の回答からは、意識のある組合員へ手法を知らせることで、実行の機会をもっと増やせる期待も読み取れます。

■まとめ

第七次中期計画の環境分析では、「パルシステム東京組合員の平均年齢が50才。そして、買い支えてきた世代と、減少している30代への商品・サービス対応が課題」であるととらえています。

今後、アンケートで寄せられたご意見から読み取れる情報を、パルシステム東京の“組合員共通の願い”の実現に向けて有効活用させていただきます。

ご協力いただき誠にありがとうございました。

以上